



発行
 社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
 〒421-0412 静岡県牧之原市
 坂部 2151 番地 2
 TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
 E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
 http://www.yamabatogakuen.jp/
 機関誌代は無料です。

予測不能な将来に向かって

(一)

もうかなり前からですが、日本の社会は、「少子化」「超高齢化」「人口減少」によって、かつてないほどの深刻な状況に直面するだろうと警告されてきました。

それらは、「二〇二五年問題」とか、「二〇三〇年問題」、或いは、「二〇四〇年問題」と言われますが、別々の違った問題ではなく、つながっている現象(前述した、「少子化」「超高齢化」「人口減少」)を、三つの段階で伝えたものです。

二年後の「二〇二五年」には、団塊世代(出生数が急上昇した一九四七〜一九四九年生)の人々が七十五歳以上の後期高齢者になり、高齢者人口(六十五歳以上)は三〇%に達します。(二〇二〇年国勢調査によれば、牧之原市は三十一・八%)



これに伴い、労働力の減少、経済成長の鈍化、社会保障費の負担増が表面化すると言われ、政府は、それらを見越して、二〇一七年から「総合事業(正式名称は、「介護予防・日常生活支援総合事業)」を導入。「高齢者が地域で安心して暮らし続けることができるよう地域で支える」という名目のもとに、全国一律の基準をやめ、市町村中心のサービスを発足させました。また、当初から「包括ケアシス

テム」の構築を視野に入れ、地域で互いに助け合うあり方を進めてきました。「高齢化が進む日本においては、従来の福祉の在り方(『公助』や『共助』)だけではなく、福祉を我が事として考え、住民同士で互いに助け合う『互助』や、自力で必要なサービスを購入し予防活動に取り組む『自助』も大切だ」として、「今後は、四つの『助』で支え合っていく」という方針を、全国に浸透させてきたのです。

(二)

話が戻りますが、「二〇三〇年」には、生産年齢人口の減少と、超高齢化の進行で、人手不足は一層顕著になると言われています。

また、「二〇四〇年」には、生産年齢人口が六千万人を下回る一方、高齢者人口は三十五・三%、五人に一人が七十五歳以上となり、GDP(国内総生産)の伸びよりも社会保障給付費の方が増大。問題はピークに達し、制度の持続可能性が問われることにも。:

これらは、主として人口や経済に関連した問題ですが、この他に日本には、世界情勢の変化に伴う戦争の恐れ、コロナなど世界的な

感染症流行の恐れもあり、国内では、台風や豪雨、土砂崩れや洪水のリスク、地震や津波の恐れ、南海トラフや富士山噴火のリスクなども予告されています。特に、当法人の施設は、どの施設も浜岡原子力発電所から直径三〇キロメートル圏内に位置しているため、何かをきっかけに原発の建物や運転に異常が生じ、「原子力事故発生」に至ることが、最大の脅威です。

南海トラフや原発事故等に関しては無力感さえ覚えますが、「人知を尽くして天命を待つ」という境地に至れるよう、職員の皆さんと共に、できるだけのことをしていきたいと考えています。

(三)

以上、心配な問題ばかりを列挙しましたが、逆に言えばこれらは、困難な中で福祉活動を充実し続けていくにはどうすればよいかという宿題でもある、と言えましょう。「生産年齢人口の減少」という課題に対しては、年齢にこだわらず、多様な働き人を雇用する方法や、そのために「働き易い環境を整備」する対策も考えられます。具体的には、子育て中の主婦、中高年の

人、障害を持つ人、引きこもりの人、刑務所出所者や、元ホームレスの人、外国籍の人等々にも門戸を開き、それぞれの状況に応じて、適切な労働時間を定めたり、事前の職業教育をするという方法です。事前教育については、相手によってもはしり込みするスタッフもいるかもしれないし、実施したとしても思うようにいかず、自分たちの非力を痛感する苦勞多い時になるかも知れません。しかし、もし、

そういったことが実を結ぶならば、事業所にとつてだけでなく、人生の道が開かれたと思っていた人々にとつても、明るい未来が見える幸いな時になることでしよう。

働き人としては、より進化した新しいロボットの活用も期待できます。AIの目覚ましい発展により、人間らしい動作や対応ができるロボットが誕生し、職員の負担軽減につながればうれしいことです。そして、いつの日か、介護人材に取って代わるロボットが登場しますよう、切に願っています。

人手不足が深刻になる中、センサーやカメラを活用した業務の効率化が進められていますし、スマ

ホによる活動管理を行っている法人もあります。私たちも、IoTやDX化、AIの活用などによる新しい働き方を検討し具体化していきたいと思うことです。そのようにして、人手が真に必要な所に對して、人材を十分投入できるようになればと願っています。

(四)

以上、当法人を取り巻く外的脅威や、課題に對し、幾つかの対策を(実現可能性を省みず)あえて書きましたが、予測不能な将来を乗り越えさせるものは、対策も勿論重要ですが、最も必要なことは、次のことだと、私は思っています。万事を益にして下さる神を信頼し、「ともに生きる」という創立の志(神様からの委託)に絶えず立ち返って歩むこと。逸脱しやすい自分たちであることを自覚し、ご利用者、職員、地域の方たちとともに、お互いを大切に、助け合いながら歩んでいくことだと。

創立者の長沢巖はこう書いています。「わたしたちは世の中で最も差別された人たちを中心として、地域の人々をも含めた『共同体』を形成することを目指しているの

です。」「重度知的障碍児のために最も必要なものは愛です。学園に働く人たちの愛、また、学園を取り巻く人たちの愛です。周囲の人々の間に愛が流れている時、この人たちは幸せになります。」

障碍を持つ人が、大切にされて育つとき、その人に秘められた穏やかさ、暖かさが、関わる人たちに反映され、その光景を見る人たちにも伝わって、全体が幸せな気持ちにさせられるという体験を、最近味わったので、ご紹介します。

それは、(福)十字の園の前理事 長・平井章氏の奥様、のぶ子さんが急逝され、その突然のお別れを悼む前夜式でのことでした。至って健康そうに見えたのぶ子夫人が、夫の章氏と共に、長年愛情を注いでケアしてきた若枝さんを遺して、章氏よりも先に旅立たれるなんて、誰も予期しなかったことでした。三人のお嬢さんの内、次女の若枝さんは知的障碍者でしたが、近年急に心身のレベルが低下し車椅子を使うようになったとも聞いていたので、案じられたのです。しかし私の思いは、遺族の席に、父上や姉妹と共に静かに座っている

若枝さんを見て安らぎ、特に、遺族によるご挨拶の前後から、平井家は、若枝さんを中心にした和やかなご家族だと気づかされ、心配無用と思うようになったのでした。

平井章氏のご挨拶は、こんな内容で、聴衆の心を打ちました。

「素敵な妻でした。僕は家内に惚れて、クリスチャンでなければ結婚しないと言うので、洗礼を受けました」「これまで妻と二人で、次女の面倒を見てきました。僕は、料理も介護もまあまあできるので、次女との二人三脚も大丈夫だろうとは思いますが、弱くなったり寂しくなったりするかもしれませんので、応援をどうぞよろしくお願ひします」。会場からは、通常はしないような拍手が沸いたのでした。のぶ子さんの遺体には、若枝さんが一生懸命手書きした「おかあさん、ありがとう」の感謝のカードが置かれていて、ご家族全員思いが映し出されていました。

悲しいけれども、大いなる平安と幸せを実感した前夜式でした。

〈理事長〉長沢道子

トーストマスターズ(TM)のご紹介

鈴木 文 三

皆さんはトーストマスターズ(以下TM)をご存じですか。

TMはアメリカに本部を置く、非営利の教育機関です。『リーダーを育てる場』の標語を掲げ、世界百四十四カ国に、約三十万人のメンバーを擁し、一万五千近くのクラブを展開し、スピーチ練習を通じて自己表現能力やリーダーシップ能力を高めるための場を提供しています。以下、TMの紹介と私の関わりについて説明いたします。

TMは、来年二〇二四年に百年を迎える組織で、一九二四年にラルフ・スメドリー博士によって設立されました。当時、スメドリー博士はYMCAの事務局長を務めており、そこに集まる若者たちが自己表現やスピーチに苦手意識を抱いていることを目の当たりにしました。彼は、これらの有能な人材が活躍できなければ、国や社会にとって損失となると考え、スピーチ力を育むプログラムを考案しました。そして、先生に頼らず仲間同士で学び合うクラブ組織としてTMを始めました。

TMクラブとは、TM本部から認定を受けたグループであり、通常は約二十人のメンバーで構成さ

れます。クラブの運営は、本部が定めるルールに基づき、メンバー自身が行います。なおTMクラブへの参加は、十八歳以上であれば誰でも可能です。

各クラブは定期的な例会を開催し、TM本部が提供する課題に基づいてメンバーは各種のスピーチを行います。またスピーチをする度に他のメンバーからスピーチの内容や話し方についての評価を受けます。このように先生の居ない環境で、メンバーは自分のペースに合わせてスピーチを実践し、自己表現能力を向上させ、自信を養います。

またクラブに参加すると、スピーチの練習だけでなく、クラブの運営や例会の開催なども担当することになります。このような経験を通じ、コミュニケーション力やリーダーシップを発揮する機会が提供されます。このおのずとリーダーシップを身につけられる点が、TM活動のユニークかつ素晴らしいところだと思います。またクラブでは、異業種や異文化の人たちと交流する機会も多く、人間関係を深めることができます点も魅力となっています。

スピーチの言語は主に英語ですが、この二十年程の間に、インドや中国などを中心にTM活動の国際化が急速に進み、TM本部は英語に加えて日本語を含む八つの言語で教材を提供しています。

日本には現在二百三十のクラブがあり、四千人のメンバーがいます。そのうち約六割のクラブは英語を使用し、約二割は日英両言語、残りの約2割が日本語で活動しています。

私自身は、二〇〇二年一月にTMに入会しました。大学時代の友人に誘われ、当時広島でクラブの設立を目指していたグループに参加したので、マツダ株式会社での三十七年間の勤務を終え、偶然にも英語と海外ビジネス関連の講座を大学で担当することになった直後だったので、スピーチの基礎を学ぶことは必要だと考え、一二年間の積りで入会しました。

ところがその後現在まで二十年以上も関わりが続いています。その間、私はスピーチ力の向上よりも、クラブや地域さらには全国のクラブを支援したり、TM国際本部との関係を深めるなど、リーダーシップの実践が活動の中心となりました。その結果、日本内外に多くの素晴らしい友人を得ることになりました。

またここ数年コロナ禍で、会場でのミーティング開催が困難と

なったため、ZOOMを使用してのオンラインミーティングが活動の中心となりました。ZOOMを利用することで、距離の制約がなくなり、遠方や外国にあるクラブの会合にも簡単に参加できるようになりました。私は現在アメリカを含む五つのクラブに所属し、一部のクラブでは役員を勤めるなど、結構忙しい日々を過ごしています。

現在、私は八十三歳になりました。本来ならTMを含む周辺の活動の整理を考え出しても良い年齢かもしれませんが、ただし、ZOOMの活用により、自宅からでもTM活動に参加できることが分かりました。

ところで私は、豊かな老後の生活には、ある程度の身体的な自由と経済的な余裕に加え、以下の三つの条件を満たすことが重要だと考えています。まず、常に新たな知識やスキルを吸収し続けること、次に知人や友人との人的交流を維持すること、そして他の人々に何か役立つ行動を続けることです。

ZOOMを活用してのTM活動は、これらの条件を満たしてくれ、最適な活動ではないかと私は考えるようになりました。ですから、私は今後もまだまだTM活動を続けていこうと考えている昨今です。

一年を振り返って

やまばと希望寮 小泉和美

やまばと希望寮に就職し1年が経ちました。この1年を振り返ってみると、やはりあつという間に1年が経ってしまったという印象です。コロナ禍ということもあり、

ご利用者との外出やご家族との関わりも少ないままに1年が過ぎていきました。担当のご利用者のご家族と面と向かって会えたのも半年以上過ぎてからでした。しかし、この1年で状況は変わり、だんだんと外出や面会の機会は増え、ご利用者にとっても、そして私たち職員にとってもより充実した日々を送ることが出来るようになってきました。

私が福祉の道を選んだきっかけは学生時代に行なった「ケアセンタールカたくりの花」での施設実習です。ご利用者、職員の明るく楽しく過ごしているその姿に、こういって職場で働きたい、私もご利用者が笑顔で過ごせるよう支援したいと強く思ったのです。この話をすると、同僚の職員は「かたくりの花で働きたかったんだね？」

といった反応を返してくるものがほとんどです。確かに私は、当初は、やまばと希望寮で働くことは考えていませんでした。しかし、今こうして1年働いてみて、私は希望寮に来てよかったと心から思っています。

日々様々な姿を見せてくださるご利用者と、その姿を仕事をしながらも楽しく見守り支援する職員がいる。私はこのような職場で働く事が出来てとても幸せ者だと感じます。時々同僚、上司から「今の仕事楽しい?」「と聞かれ「楽しいですよ」と答えれば「言わせない?大丈夫?無理して言わなくてもいいからね」と返されます。大丈夫です。無理していません。本当に楽しいと思って仕事をしています。

私のモチベーションはご利用者や職員の楽しんでいる姿を見る事なので、とても楽しく仕事をしていますし、これからも楽しく仕事をしていきます。これから行事や外出の機会が増え、まだ見た事の無いご利用者の姿を見られる事を心待ちにしています。

(生活支援員)

施設長になって

フューチャー希望の家・谷あひ 原 絵梨

フューチャー希望の家・ふれあいの施設長となり三ヶ月が経ちました。初めての管理職務に加え、今まで担当していた事務業務の引継ぎに決算業務と、とにかく慌ただしく過ごした三ヶ月でした。そんな私に対し、人員減となった中で支援業務に奮闘しながらも、気遣いと労いの言葉をかけ、私を支えてくれたる職員の方々に感謝しています。

さて、施設長になって思う事は、「求められる視点の違い」です。私は今まで生活支援員と事務員を兼務しており、ありがたいことに支援と会計の両方の視点を学ばせていただきました。今管理者として「判断する立場」に置かれると、必要なのは運営・組織の視点、さらにそれに対して先を見通す、見極める能力だと気づかされています。例えば、六月の台風二号による線状降水帯の発生の際にはご利用者の安全を確保する為、開所すべ

きか、どの時点で帰宅を判断すべきか悩みました。災害対応だけでなく、日々自分の判断が正しいのか、自問自答の毎日です。

悩むということはそれだけ最善の方法を見つけようとしていることであり、今の私には経験と学びを重ねていくしかないという前向きに捉えることとしています。そしてその答えはご利用者の笑顔と職員の働く姿に反映されるのだと思います。これから私に与えられた新たな役目に邁進し、ご利用者、ご家族、職員、そして地域を支えることのできる良き施設長の姿に、少しでも近づけるよう努めていきます。

(施設長)



新人職員に聞きました。

2023年度新卒入職者5名の方たち(垂穂寮 天野佑月さん、聖ルカ 見城樹さん、田村悠香さん、谷口徹さん、希望寮 杉山壘さん)に1~6の質問をしました。

1・人にアピールできる自分らしいポイントは？

天野：忍耐力がある。出来ないことにもめげずに挑戦することができるから

見城：「『静かで穏やか』、一緒にいて落ち着く」と言われたことがあるので、それがアピールポイントだと思います。

田村：よく分からない。考えたこともないから。

谷口：人と打ち解けるのが早いところ。話をするのが好きなので、職員、利用者問わず沢山話をしています。

杉山：体力があるところです。学生時代、全て運動部に所属していたため、肉体的な体力は自信があります。

2・失敗したときや気持ちが沈んだときは何か回復するアイテムなどありますか？

天野：ある。趣味に没頭することで嫌なことを忘れれます。

見城：ある。回復アイテムはご飯です。ご飯を食べれば元気になります。

田村：ある。趣味を多く持っています。

谷口：ある。運動です。特にランニングで、1日の終わりにランニングをし、気持ちをスッキリさせています。

杉山：ある。自家の猫や、猫のキャラクター、です。昔から猫が好きで、いやされています。

3・就職する前と今、やまばと学園(または、事業所)の印象の違いはありますか？

天野：人も環境もあたたかいという印象は、変わっていません。

見城：違いはありません。最初のオリエンテーションの時から、やまばと学園の職員の方々はとても優しい印象でした。実際に現場で共に働かせていただくと、丁寧にしっかりと自分に仕事を教えてくださり、感謝しています。

田村：職員同士の仲が良いことがわかるから、いいです。

谷口：とても温かい人ばかりで就職前と印象は変わっていません。

杉山：大学での実習で来たのですが、印象は変わらず、あたたかい職場だと感じています。

4・先輩や年上の人を見てあやかりたいと感じる所作や立ち振る舞いはありますか？

天野：利用者さんとの関わり方で、とても良い関わり方だなと思ったり真似したいと感じたりすることがたくさんあります。

見城：職員、利用者様に対して笑顔で謙遜な態度で接している先輩の姿をみてあやかりたいと思っています。

田村：業務と両立して、余裕を持って利用者様に対応したい。

谷口：スピーディ且つ丁寧に仕事をこなしている姿にはいつもこうなりたいと思っています。私はまだスピードを意識すると雑になってしまうため、まずは丁寧に心をかけていきたいと思っています。

杉山：利用者さんに対して丁寧に接している方がおり、その人の利用者さんへの説明の仕方や言葉使いには学ぶことが多くあります。



5・将来、仕事以外でチャレンジしてみたいことは？

天野：日本全国を旅行したい。色々な場所を見てみたいから

見城：趣味で釣りをしてみたいです。小さい頃から海が好きで、海釣りをしたいなと思っています。

田村：資格取得。仕事で役に立つと思うから。

谷口：趣味でキャンプをしています。まだ近場でのキャンプしか出来ていないため、いつかは遠くの場所だったり珍しい場所で、ゆったり時間を過ごしてみたいです。

杉山：ギターを弾き語り。元々、歌を歌うことが好きで、最近ギターに興味があるので、練習して、弾きながら歌ってみたいです。いつか利用者さんの前でもできたらいいなと考えています。

6・社会人になった今の気持ちのなかで30年後も大切に持ち続けたいことは？

天野：笑顔でいること。笑顔は自分も相手も幸せにすることができるから。

見城：いつも学ぶ姿勢を持ち続けながら仕事ができたらと思っています。

田村：柔軟さと素直さを持ちつつ、自分の芯は変えずに貫いていきたい。人間関係を円滑に進めていきながらも必要以上の我慢はしないようにするため。

谷口：常に考えて行動をする。今は覚えることや学ぶことで手一杯ですが、ある程度仕事に慣れるとそれが作業になってしまったりするのではないかと思います。そのため、今後も常に考えながら慢心せずに仕事に臨みたいですね。

杉山：初心を忘れない、です。働き始めた時の気持ちで仕事をするので、気が引き締まりますし、色々なことに意欲的に取り組めるためです。

2022(令和4)年度 牧ノ原やまばと学園 決算報告

法人単位資金収支計算書

(自2022年4月1日 至2023年3月31日) (単位:円)

法人単位事業活動計算書

(自2022年4月1日 至2023年3月31日) (単位:円)

		勘定科目	決算			勘定科目	決算
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	765,763,684	サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	765,763,684
		老人福祉事業収入	235,926,935			老人福祉事業収益	235,926,935
		就労支援事業収入	50,006,286			就労支援事業収益	50,006,286
		障害福祉サービス等事業収入	1,089,854,430			障害福祉サービス等事業収益	1,089,854,430
		医療事業収入	5,474,662			医療事業収益	5,474,662
		その他の事業収入	6,374,738			その他の事業収益	6,374,738
		経常経費寄附金収入	13,991,082			経常経費寄附金収益	13,991,082
		受取利息配当金収入	65,896			その他の収益	1,368,006
		その他の収入	8,088,983			サービス活動収益計(1)	2,168,759,823
		事業活動収入計(1)	2,175,546,696			費用	人件費
	支出	人件費支出	1,438,132,188	事業費	327,988,310		
		事業費支出	334,365,787	事務費	212,814,814		
		事務費支出	213,168,916	就労支援事業費用	51,634,333		
		就労支援事業支出	51,556,499	利用者負担軽減額	1,805,213		
		利用者負担軽減額	1,805,213	減価償却費	182,934,818		
		支払利息支出	3,196,624	国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 54,102,681		
		その他の支出	3,244,749	サービス活動費用計(2)	2,161,783,035		
事業活動支出計(2)		2,045,469,976	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	6,976,788			
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)			130,076,720	サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	65,896
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	818,000			その他のサービス活動外収益	6,720,977
		固定資産売却収入	15,380				
		施設整備等収入計(4)	833,380				
	支出	設備資金借入金元金償還支出	21,268,488			サービス活動外収益計(4)	6,786,873
		固定資産取得支出	36,593,696			支払利息	3,196,624
		固定資産除却・廃棄支出	1,795,310			その他のサービス活動外費用	3,273,749
		ファイナンス・リース債務の返済支出	3,507,588			サービス活動外費用計(5)	6,470,373
		その他の施設整備等による支出	1,246,450			サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	316,500
		施設整備等支出計(5)	64,411,532			経常増減差額(7)=(3)+(6)	7,293,288
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)			△ 63,578,152	特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	17,879,144	施設整備等寄附金収益			0
		その他の活動収入計(7)	17,879,144	固定資産受贈額			206,000
	支出	積立資産支出	48,863,440	固定資産売却益			15,379
				その他の特別収益			191,687
				特別収益計(8)			1,231,066
				固定資産売却損・処分損			1,821,571
				国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)			0
				国庫補助金等特別積立金積立額			818,000
				その他の特別損失			0
				特別費用計(9)	2,639,571		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)			△ 30,984,296	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 1,408,505		
予備費支出(10)			0	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)			5,884,783
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			35,514,272	繰越活動増減差額の部	収益	前期繰越活動増減差額(12)	1,805,306,916
前期末支払資金残高(12)			908,936,402			当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,811,191,699
当期末支払資金残高(11)+(12)			944,450,674			基本金取崩額(14)	0
						その他の積立金取崩額(15)	5,410,000
						その他の積立金積立額(16)	33,250,000
						次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	

法人単位貸借対照表

(2023年3月現在)

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	当年度末	科目	当年度末
流動資産	1,082,571,902	流動負債	233,899,253
固定資産	3,546,453,280	固定負債	563,658,807
基本財産	2,274,147,299	負債の部合計	797,558,060
その他の固定資産	1,272,305,981		
資産の部合計	4,629,025,182		

純資産の部	
科目	当年度末
基本金	542,667,132
国庫補助金等特別積立金	591,684,291
その他の積立金	913,764,000
次期繰越活動増減差額	1,783,351,699
純資産の部合計	3,831,467,122
負債及び純資産の部合計	4,629,025,182

寄付金収支状況

2022年度も多くの皆様よりご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。

(単位:円)

(単位:円)

収入内訳		一般会計		支出内訳	
本部取扱い分	寄付金		10,761,039	機関紙代	0
	誌代 ※		0	奨学金及び旧施設解体等費用として本部残高に繰入	10,761,039
	小計		10,761,039	寄付金受入れ事業所運営費用	3,230,043
事業所取扱い分			3,230,043	合計	13,991,082
合計			13,991,082		

助成金の報告

助成金をいただいて、以下のものを購入しました。感謝して報告いたします。

(単位:円)

助成団体名	事業所名	物品名	助成金
NHK 歳末たすけあい助成金 (静岡県共同募金会)	養護老人ホーム相寿園	クリスマス会経費、新年会経費	164,000
NHK 歳末たすけあい助成金 (静岡県共同募金会)	養護老人ホームぎんもくせい	クリスマス会経費、新年会経費	188,000
福祉施設機器整備事業 (静岡県共同募金会)	ケアセンター花もも	テーブル、いす テレビ 冷蔵庫等	818,000
敬老会実施事業費助成金 (鳥田市)	養護老人ホームぎんもくせい	敬老会費用	39,800

歩みのあと

(5月1日〜6月30日)

●全体的なこと
24事故防止委員会。5/25消費
税監査(杉山会計)。6/13/21事
務統括検討会。

●個別のコース
(法人)5/24第1回介護保険策定懇
話会に理事長が出席。5/25聖隷
評議員会に理事長が出席(SOOM)。

5/27第1回理事会。主な議案。監
事監査報告。2022年度事業報
告案並びに決算案、定款の変更、理
事及び監事候補の推薦、管理者人
事など。5/26小山社労士と労務
職員研修内容の打合せ。5/19牧
之原市オープンカンパニー研修に事
務局長が参加。6/8インドネシア
のアーナ議長様訪問と話合い。

6/13/14相良高校生とWED企業
説明。6/16二等級研修、講師は
長崎朗氏。6/17定時評議員会。
役員の見直しと決算承認など。金子
理事が退任し、平井章氏が理事に就
任。同日午後理事長の選出。20就
澤道子を理事長に選出。6/20就
職説明会開催。6/22牧之原市社
会福祉協議会評議員会に長澤理事
長が出席。

二〇二三年度 評議員・役員氏名
(敬称略)
(一)評議員(任期4年/残り2年)
池上千穂、柴田敏、杉本正、
外岡潤、田島逸雄、早川ひろみ、
久田則夫、渡辺紀久子、山城厚生
(理事)(任期2年)長澤道子
(理事)(任期2年)
姉崎弘、大石幸、佐々木実、
平井章、松田正幸、三浦賀世
(監事)(任期2年)
飯塚孝一、松浦隆雄

●「野ばら」5/1〜31「ご利用者様、
職員一人ひとりから、笑顔になる
挨拶をしよう」で、広野海岸公園
KADODENO(AWA)ヤマプラチ
等へ。6/13フレックソロジー。6/28
15
絵画教室。6/27レクチャー。6/28
スライディング。6/29動物ふれあい
訪問。
●「みまわ」5/20消防立ち合いの消火
訓練。6/25利用者ミーティング。総
合防災訓練。6/30家族等の会。
●「やまばと希望寮」5/27保護者会。
17家族延べ22名の方が参加。成年後
見制度や通院同行等に関する意見
交換を行う。
●「生活支援センター」朝礼時に、ケース
事例等について気軽に相談できる
環境を継続。特定相談(計画相談、
委託相談)で常に家族と連携連絡
を行う。
●「わかば」5/19明るい未来検討会。
困難事例検討。業務手順書の作成。
24利用者おやつリクエスト、ホッ
トケーキを食べる。
●「もくれん」5/19「明るい未来検討
会」困難事例検討。業務手順書作
成を検討。5/3お茶飲みみえ大ら。
5/5餃子の皮ピZZAパーティー。
トッピングは各自。5/21水々公
園ホタル観賞。6/24BBQ。
●「花もも」5/1開所記念。ウエルヒ
様からチーズケーキとリリーの差入
大喜び。6/23花もも運動会。今年
は聖ルカ、真菜、グレイスのご利用者
職員も参加。
●「かたくりの花」5/16藤田農園でイ
チゴ摘みとジャム作り。5/25誕生
日会。シンパ、タワウ。笑顔最高。5
29何回も研究のふわふわバンケー
キッキング大成功。6/13/15/19/
26「ヒータイム」で近所の喫茶を
訪問。
●「マーガレット」5/12ピタ島田へ。5
17感謝の書道作品と香り袋を送
る。6/6虫歯ゼロ活動。歯がピンク
色に。6/12新東名掛川SAへ。券
売機利用の体験。6/16誕生会。室
内運動会。景品は地元のもの。競技
では良い香りのパンは直線。
●「カサフランク」5/8/12GW後の
繁忙期で、週間残業で頑張る。6/
5/搬入される資源。えの量減少。
空いた時間に学習の時間を設けてみ
んなで楽しく勉強。
●「コスモス」4/10勤続5年利用者の

表彰。5/17民生委員との交流会。
講師を招いてヨガ体験。
●「なのはな」平日作業日。ジュースで労
生職業体験。ビンゴゲーム大会で交
流深める。
●「希望の家」5/12「家族に感謝の日」。
ご利用者から日頃の感謝を伝える。
6/23ポッチャ大会。終了後はたい
焼きでお互いの健康を称える。
●「ふれあい」5/11GH入居者の社行
会。25年間の交わりに感謝。6/15
交通安全教室。雨のため施設内訓
練に変更し、模擬横断歩道を渡る
訓練し。
●「あさがお」5/1石神新施設長着任。
地域交流企画「第二火曜」に体操教
室にて笑いヨガを隔月実施。6/
13笑いヨガ。地域から8名参加。利
用者も積極的に楽しむ。
●「Wooやまば」5/2勝間田山へ春
のハイキング。中ノ沢古墳から大ケ谷
横穴前を通り、頂上へ。皆で食べたお
にぎりは最高。6/13坂部市民セン
ターで体操教室。運動不足を解消。
●「さくら」5月。作業の隙間時間を活
けし、新しい作業に挑戦。見たたけ
けしたでできて喜ぶ。6/26余暇の過
ごし方体験会。二人で仲間と家で
も「本」パズルボードゲーム等をケ
ループ別に体験。生活が豊かになる
ように、今後も昼休みを利用して続
けた。
●「レタスクラブ」5/8静岡へ行き、静
岡のボラティと交流。セバ等で買
い物など。6/14一人暮らしの日記
のリエクトに心をこめて豚丼などを皆
で作る。久しぶりの家庭の味を堪能。
●「聖ルカホーム」5/1聖ルカ創立記念
日。お祝ひ饅頭を提供。4月の勉強会
(ケア認知症ユニットケア)を取り
でマニアル見直し。防災訓練。防災
食の検討。新人職員と育成担当者
が面談。課題に助言/励ましを伝え
た。6月大開の除、牧之原市より福
祉避難所開設の打診があるも被害
無く開設には至らず。

●「オリブ」5/25市庁舎さんかの
草刈協力。6/2023包括事業所の
0策定で、台風の対応の要配慮リ
ストや対応ルールを検討。
●「ぶどうの木」5/23婦交さん講話。
シートベルト着用の話。6/9婦交さ
ん来所。6/2台風の影響で午後の
教室を月曜に。6/19掛川道の駅等
へ。6/21相良資料館等へ。

6/15コロナクワチン6回目。6/16
坂部ふれあいサロン様にて地域貢献
活動。6/22久しぶりにあった歌会
の歌謡ショー。
●「相寿園」5/24相良高校インターン
シップ報告会。事業所として参加。
参加生徒の報告をきく。2023年
度も実施が決定。
●「さんもくせい」火災後のスプリンク
ラー先行工事は見直しで延期。
5/2座談会。5/11訪問衣類販
売。5/16笑いヨガ。5/17習字クラ
ブ。5/18運動会。転倒予防教室。
5/30コロナクワチン6回目挨拶。
●「真菜」5/1手作り行楽弁当。えん
どう豆のおにぎりが好評。5/11/
13女性ご利用者に手作りカーネー
ションをプレゼント。5/17断トツ1
位の握り寿司のリエクト昼食。5/
26平井農園へジャガイモ堀り手伝い。
6/8あった歌会。歌謡歌謡ショー。すず
らんと合同の防災訓練。避難タワ
ウ。6/9あじさい鑑賞ドライブ。6/
23花もも運動会へ。参加賞はト
ナツ金メダル。
●「すずらん」5/20いちご大福作り。5
24梅の収穫と梅ジュース作り。
昔を思い出し作る。6/6運動会。
さくら会とお仲間の協力で盛り上
がる。6/8真菜合同防災訓練。6/
24餃子作り。ご利用者も積極的
に参加。
●「さくらん」職員へ食中毒の研修。結核
感染の利用者対応をしたヘルパー5
名結核感染の検査を受け陰性を確
認。特定事業所加算IIからIに変更。
●「シャローム」5/11牧之原市主任C
M連絡会。5/12牧之原市介護予
防ケアプラン会議。5/17吉田牧之
原CM連絡会総会。6/1牧之原
市保健福祉制度研修。6/9主任C
M更新研修(6/9/21/30)。6/
13掛川県介護支援専門員協会研
修。6/16坂部ふれあいサロンで地
域貢献。

●「ワークセンター」5月8日〜6月9日
鳥田看護専門学校2名
5月25日〜5月26日
(なのはな)
鳥田看護専門学校2名
5月29日〜5月30日
あとかぎ
☆表紙の写真はワークセンターさんからの
ご利用者。この4月から利用を開始
された40代の男性様です。
☆鈴木文三氏は、(株)マツダでの海外勤
務等を経て、現在広島経済大学名
誉教授、トーストマスターズ日本地
区代表、なおトーストマスターズは、
Toastmaster(同会)士由来しています。
☆集中豪雨のため、被災された方々に
は心からお見舞い申し上げます。当
施設内ではコロナ感染が時々発生し
ており、なお気が抜けません。(一)

寄付金状況報告

Table with 3 columns: 寄付金, 指定寄付金, 合計. Rows for 4月~5月, 6月, 計. Total amounts: 544,000, 976,926, 1,520,926.

※2022年度より、機関紙代収入は計上していません。
すべて寄附金取入として、計上しています。

★活動者名(敬称略順不同)

- 個人 内藤せき、大石節子、中嶋栄子、
大川原富美子、殿村隆夫、井部、
大塚、小島、澤和哉、澤真澄、三浦孝
田中恵子、鈴木武行、鈴木展行、
松田英己、川嶋章仁、原貴昭
団体 日赤奉仕団(草刈り)とくら会。
実習生受け入れ状況
東京通信大学1名
5月8日〜6月9日
ワークセンター1名
鳥田看護専門学校2名
5月25日〜5月26日
(なのはな)
鳥田看護専門学校2名
5月29日〜5月30日